



# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P子どもの森づくり運動  
参加園月例会報  
(2024年3月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年度最後の子森通信をお送りします。

今月号では、新年度（2024年度）の活動計画案をご案内しました。

今月号では概要を、次月以降で個別に詳細をご案内させていただきます。

新年度も、参加園の皆さんとの協働でより良き1年とさせていただきたいと思っております。

是非、ご意見いただけますようお願い申し上げます。

写真は、昨秋、東北から届いたどんぐりです。今年も発芽してくれました。

(目次)

1. J P子どもの森づくり運動 2024年度活動計画案
2. 「子森通信」2024年度リレーエッセイ執筆者のご紹介
3. リレーエッセイ（2024年3月号）

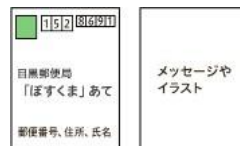
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに  
ぼすくまからお返事が届くよ!



ぼすくまの動画はこちら



YouTube  
ぼすくま【日本郵便】  
[https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX\\_NqUUZ9A](https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A)

ぼすくまと仲間たち  
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぼすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぼすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691  
目黒郵便局「ぼすくま」あて

※ぼすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

## 1. JP子どもの森づくり運動 2024年度活動計画案

JP子どもの森づくり運動の2024年度の活動計画案をお送りします。子森通信の今月号では、全体の活動を概観し、個々の活動については、来月号より順にご案内します。2月の「全国集会&研修会2024」において提案させていただいたように、JP子どもの森づくり運動の年間テーマは『非認知能力を育む「遊び」』としました。非認知能力は、子どもたちの持続可能な未来を創り上げる「環境の心」と、その活動を粘り強く継続する「生きる力」の源泉です。そして、非認知能力は、主体的、かつ継続的な自然の体験（遊び）の中で育まれます。そのためどのような体験を提供すべきか、2024年度1年かけて、既存のプログラムにとらわれない、本当に子どもの心に届く「自然遊び」のプログラムづくりに挑戦してまいりたいと思います。皆様のご意見、ご協力をお願い申し上げます。

### 1) 東北復興グリーンウェイ2024東北での植樹活動

今年も「東北復興グリーンウェイ」における東北での植樹活動が実施されます。

#### ○開催概要

- ・開催日：2024年5月22日(水)10:00～11:00
- ・会場：岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町苗畑
- ・主催：認定こども園 つつみこども園
- ・共催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- ・後援：大槌町



2023年 大槌町における植樹活動風景

### 2) 「保育防災サミット」

JP子どもの森づくり運動では、「東北復興グリーンウェイ」の活動を通じて、東北の保育者から様々なことを学びました。災害から、本当に子どもの命を守ることを目指す「保育防災」の活動もその一つです。

「保育防災サミット in おおづち」は、「東北復興グリーンウェイ」における東北での植樹活動が10年目を迎える節目の年に、あらためて東北から学んだ「保育防災」の心をふりかえり、これからの活動を考えることを目的に開催します。

#### ○開催概要

- ・開催日：2024年5月22日(水)14:00～17:00
- ・会場：大槌町文化交流センター「おしゃっち」
- ・内容：基調講演、保育防災取り組み事例発表  
保育防災講座、パネルディスカッション

**参加費  
無料**

東北に学び 東北で考える 保育防災  
かけがえのない子どもの命を守るために

JP子どもの森づくり運動  
保育防災サミット

in おおづち  
**参加者募集**

日時 **5/22 水** 14:00～17:00

会場 大槌町文化交流センター  
通称：おしゃっち 多目的ホール  
(岩手県上閉伊郡大槌町末広町1-15)

主 催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）  
共 催：大槌町  
特別協賛：日本郵政グループ  
協 力：つつみこども園・山田町第一保育所・とよまねこども園・縄笠保育園  
あかまえこども園・吉屋吉里保育園・かまいこども園・三陸鉄道  
募集人数：100名

<p><b>基調講演</b></p> <p>「3.11」の教訓に学ぶ保育防災の核心は「心の教育」 元釜石小学校校長 渡邊 真穂氏</p> <p><b>保育防災講座</b></p> <p>保育防災アクションマスター認定講座講師 消防庁アドバイザー 鎌田 修広氏</p>	<p><b>保育防災取組事例</b></p> <p>あかまえこども園（岩手県）とよまねこども園（山田町） つつみこども園（大槌町）大野幼稚園（福井県）他</p> <p><b>パネルディスカッション</b></p> <p>大槌町平野町長、消防庁アドバイザー鎌田氏 子森ネット理事代表、つつみこども園園長 長 大野幼稚園（招き者）</p>
---	---

申込締切  
5月10日

申し込み・お問い合わせ

メールの場合はお名前・人数・所属団体名  
メールアドレスをご記入の上  
お申し込みください。 QRコードからも  
お申し込みできます！

info@kodomonono-mori.net

## 2) 2024年度保育者支援活動

J P 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」2日目は、「保育防災」と「園庭緑化」をテーマに、全国の保育者の実践に学ぶ研修会としました。「保育防災」では、「前・釜石小学校」校長の渡邊 真龍氏による『釜石の奇跡』

### 【幼児期の自然体験活動サポート】

- ①どんぐりを育てる活動の意味を、子どもたちに分かりやすく伝えるための紙芝居をお送りします。（\*制作：東京ゆりかご幼稚園）
- ②新しい自然体験プログラムを考え、構築するために、自然体験活動の聖地、「岐阜県立森林文化アカデミー」において、カリスマインストラクター萩原・ナバ教授による自然体験講座を開催します。（詳細次月号）
- ③2024年度も、幼児期の環境学習をサポートする「どんぐりSDGs 劇団」のキャラバン活動を継続します。



紙芝居イメージ

### 【保育防災アクションマイスター認定講座2024】

災害列島化したわが国の現状を踏まえ、「本当に子どもたちの命を救う」ために、通常の防災の仕組みや方法が通用しない保育施設に特化した保育防災リーダーの養成を目指す「保育防災アクションマイスター認定講座」を2024年度も開催します。

（※ご案内）

2024年度生の応募締切を4月5日(月)まで延期しました。受講ご希望の方は、右のQRコードより、急ぎご応募ください。



全国研修会2024認証式にて3期生のみなさん

### 【園庭緑化運動2024】

- ①2024年、モデル園講座（2期生）を継続します。
- ②園庭緑化活動の普及のために、2024年度も年間3回の下記オンライン講座を実施します。
- ・6月講座：国際校庭園庭連合日本支部代表 仙田 考氏
- ・8月講座：東京ゆりかご幼稚園園長 内野 彰裕氏
- ・10月講座：むぎの穂保育園園長 出原 大氏



全国研修会2024にてモデル園3園のみなさん

## 2. 「子森通信」2024年度リレーエッセイ執筆者のご紹介

「子森通信」の2024年度リレーエッセイを、下記の方々にご執筆いただけることになりました。

皆さんそれぞれの分野で素晴らしい活動を実践されておられる方々です。どうぞ、お楽しみに。

(春) 4月～6月	NPO法人 日本冒険遊び場づくり 協会 代表 関戸 博樹氏	(夏) 7月～9月	花の森こども園 園長 葭田 明子氏
(秋) 10月～12月	ウレシバモシリ 主宰 高橋 京子氏	(冬) 2025年1月～3月	認定こども園さざなみの森 副園長 高田 憲治氏



### 3. リレーエッセイ (2024年3月号)

ライターの岩井 光子さんによる リレーエッセイ「SDGs 入門」の最終回です。1年間に渡り、とても意義深い原稿をお送りいただきありがとうございました。今月号は、最終回にふさわしいテーマ「身体的コミュニケーション」についてです。

#### 【SDGs入門】

身体的コミュニケーションが育む人間本来の共感力

ライター 岩井 光子



SDGsの目標には3つのCが立ちはだかっているとされています。3つのCとはClimate（気候）、Covid-19（新型コロナウイルス）、そしてConflict（紛争）です。

コロナ感染はだいたい落ちてきたものの、紛争に関しては、やりきれない気持ちになるような残酷なことも起きていますよね。戦いは消えない憎しみや悲しみを生むだけの行為だとわかっていても、人間は過ちを繰り返してしまう生きものなのでしょう。かー。



先日、NHKのアカデミアという番組で、長年のゴリラ研究で知られる人類学者の山極 壽一さんが興味深い指摘をされていました。そもそも平和的だったはずの人間がなぜ人を攻撃するようになったのか、その起源に迫るというテーマでした。

人類の祖先が誕生したのは700万年前。長い間森を拠点に暮らしていた人間が森を出て共同体を形成するようになったのはつい1万年前のこと。集団生活に求められたのは共感力でした。もともとパワーもそれほどない人が外敵から身を守って生き延びるためには、協力が欠かせなかったのです。

山極さんによると言葉がない時代、人間が共感力を高めた方法は2つ。一つはアイコンタクト。ゴリラにもお互いをじっと見つめ合ってコミュニケーションをとる方法があるそうですが、人間はさらに黒目の周りに白目があるので、より繊細に目の動きから相手の感情を読み取ることができます。

もう一つは子育て。人の子どもは他の動物よりも成長に労力と時間がかかるため、子孫を増やすためには、集団で協力し合うことは必須でした。

やがて言葉が生まれ、定住して農耕や牧畜の生産力が上がると、共同体の規模は大きくなり、人の交流範囲は飛躍的に広がりました。それまでコミュニケーションといえば、アイコンタクトに始まり、音楽やダンスなど体を伴うものでしたが、言葉は体なしに意味や情報を伝達します。

山極さんは言葉が一人歩きし、「共感力が暴発した」ことで、人は武器を人に向け、攻撃するようになったと推察しています。体を伴わない言葉は、悪意を増幅して相手に届けてしまうことがあります。これに対し、受け取った方は共同体を守る使命に駆られた自己犠牲の精神から、ついには攻撃行動に及んでしまう、というのです。身体的コミュニケーションの不在が敵意を生むとの指摘は示唆に富んでいます

この話を聞きながら思い出したのが幼児教育のことでした。保育の現場もまさに共感力を育む場所ですよ。共同体で過ごしながら、体を共鳴させて学ぶというすごく大切なことを実践している場所なんだと気づかされます。

今や知識はAIが担うこともできる一方、共感力が育む社会性は希薄になっています。子森ネットさんが力を入れている数々の活動も、大きくはそういうことなのかなと、改めて納得できる部分もありました。

集まって対話をしたり、助け合ったり、一緒に喜んだり。コミュニケーションを取り戻すことで人間本来の共感力が発動する。このように考えてみるとSDGsに必要な第一歩も、まずは意識して外に出たり、人に会うことなのかもしれないと思えてきます。

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。